

ミニ企画展

北越雪譜の自然!!

会期■2021年7月28日(水)～9月6日(月)

水揚げりだ!
高い所へはや、
逃らっしゃい!!

笈掛岩の見事な氷柱、切り立った絶壁のある滝、または人家を襲った雪中の洪水、雪崩、雪吹など『北越雪譜』から自然にまつわるお話を紹介します。

「雪中洪水之図」(部分)より

会期中、南魚沼市民は観覧無料

観覧料■個人 500 円、小中高 250 円(HP の画面提示 20%off)

鈴木牧之記念館

■休館日 毎週火曜日(8月10日・17日は開館)

〒949-6408 南魚沼市塩沢 1112-2

TEL&FAX 025-782-9860

<http://www.6bun.jp/bokushi/>



HPはこちら

雪吹に焼飯を売

(『北越雪譜』より)

久しぶりに晴れた冬のある日、藪神の庄の村から農夫が一人、五里ほど離れた柏崎に向かっていました。途中で商人と道連れとなり、二人はのどかに話しながら歩いていきました。

ところが、塚山峠にさしかかったときのこと、晴天の空が急に雲で覆われてきて、暴風が辺りの雪を吹き散らしました。吹雪は不意にやってくるので、出かけるときは必ず蓑笠を持っていくのが雪国の常識です。二人はカンジキで雪を漕ぎ、お互いに声を掛け合いながらようやく峠を越えました。

すると、商人は、「今日は天気がよいから、すぐ着くと思って弁当を持っていません。腹が減って寒くなってきた。先ほどの話では、おまえさまは弁当をもっているそうですね。それを譲ってくれませんか。ただでもらおうというのではありません。死ぬか生きるかの瀬戸際ではお金など問題になりませんから、六百文で売ってくれませんか」と頼みました。農夫は貧しかったので、六百文と聞くと大喜びで焼飯二つを売ってしまいました。

商人は、大きな焼飯を二つ食べ、雪でのどを潤すと元気になり前に出て進みました。

先を急ぐほどに吹雪も激しくなり、カンジキをはいては思うように進みません。日も既に暮れようとしています。今になって、農夫は、空腹で疲れてしまいました。一方、商人は焼飯を食べたので元気に先を急ぎます。農夫はしばしば遅れてしまうので、商人は、一人で先に村にたどり着き、そして、知り合いの家で炉端に座って酒を飲んだら温まり、生き返ったような気持ちになりました。

さて、しばらくして遠くのほうから、「ホーイ。ホーイ」という声が聞こえました。聞きつけた村人は、「『ホーイ。ホーイ』って、吹雪の中で助けを呼んでいる声だぞ」早速、人を呼び集めて、人を掘り出すためコスキを手元に、急いで声のする方へ向いました。

間もなく、大勢の人々が土間に一人の死骸を運んできました。商人がのぞいてみると、それは、先ほど焼飯を売ってくれた農夫でした。



定価
1枚 200円

新しく北越雪譜ゆかりのポストカードを作りました。異獣・雪の結晶・民具など六種類あります。なかなか友人知人と会えないこの頃、手紙や葉書をもらうとても嬉しいものです。よろしかったらご利用いただけます。

牧之記念館よりお知らせ